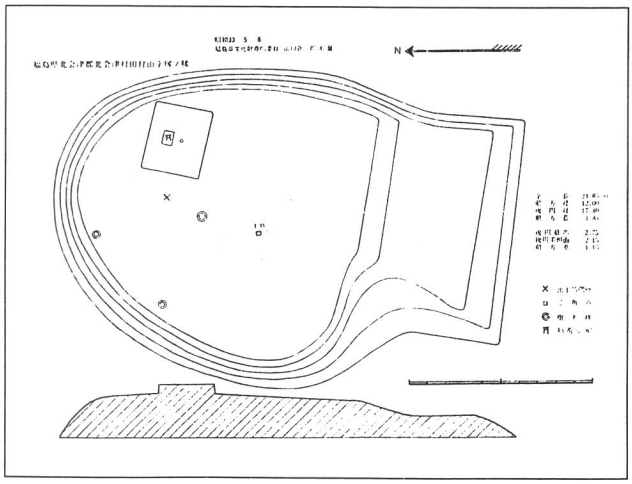
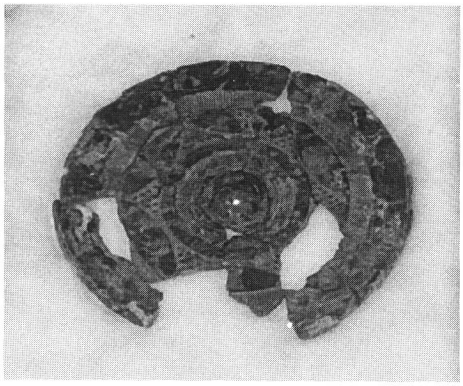


会津田村山古墳実測図



田村山古墳出土品（内行花文鏡）

◇　関連事項

崇神天皇の十年の頃、四道将軍の大彦命が高志（こしの）道を武渟川別（たけぬなかわわけ）命が東方十二道を通って父子が相津で遇ったと伝えられている（古事記）。その後大宝元年（七〇一）に相津が会津に改められたといわれている。また大同元年（八〇六）に磐梯山が噴火し、猪苗代湖が生じたと伝えられている。その為大同二年（八〇七）勅令により、災異鎮護のため空海に恵日寺を創建させた（会津由事雑考）。その後大同四年（八〇九）頃から空海に代わって徳一が恵日寺に入り（福島県史）、仏教を広く普及し、会津四郡の地の大半を寺領とし、所謂いなばつ政治といわれる政治が行われた。

康保元年（九六四）真言僧久光坊は石原村に石沢山薬師寺を建てたと伝えられている。

養和元年（一一八一）会津恵日寺の衆徒頭乗丹坊が僧兵を率いて越後の城長茂に加勢し、長野県横田河原で木曽義仲と戦って敗死した。これ以後、会津は平泉の藤原氏の支配下に入る。しかし源頼朝が文治五年（一一八九）に平泉の藤原氏を滅ぼすと、会津は鎌倉幕府の支配下に入った。

中世（鎌倉・南北朝・室町・戦国時代）

◇　関連事項

鎌倉時代に入り、源頼朝は会津四郡を佐原十郎左衛門義連に、大沼郡のうち伊北郷を山内秀基に、会津郡のうち南山を長沼宗政に、伊南郷を河原田盛光に与える。その後佐原義連が始めてこの国に下向の時、中荒井村の御膳河原で幕をはり、旗を立て昼餉をしたところが旗明神の旧跡であるといい伝えられている。正和二年（一三一三）に下小松村（小松村）の感応神社が恵心源信によって創建された。

一　下荒井城築城

葦名盛宗の家臣で、四天の宿老の一人である富田監物祐義は嘉暦二年（一三二七）に荒井郷（大沼郡西十二か村）五千石を賜り、元徳元年（一三二九）下荒井の地（現在の多目的農村広場）に城を築いた。その際耶麻郡叶荘より八幡宮を下荒井と下荒田（宮ノ下村）に共に移した。また、城の東部一角に康寧山宝寿禅寺を建立した。なお城は天正十七年（一五八九）伊達政宗の兵火により焼失した。次の頁の図は下荒井城の復元図である。